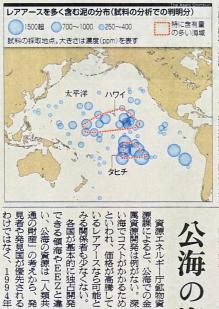
こ大量レアア

ハワイ・タヒチ周辺 東大など研究チ



通の財産」の考えから、発 見者や発見国が優先される 公海の資源は「人類共

できる領海やEEZと違

各国が基本的に独占開発

に探査や開発の規則を国際 問題が絡むため、鉱床ごと の汚染リスクなどの複雑な への利益の配分、同じ資源

年以上かかることもある

案から規則ができるまで数

いるレアアースなら可能と

を持つ国への補償、採掘時

属資源開発は例がない。深 源課によると、公海での金

開発にあたっては、各国

資源エネルギー庁鉱物資

に設立された国際組織「国 際海底機構」が管理する。

海底機構で採択している。

と仏領タヒチ付近の計約1 と見られるのはハワイ付近 レアアースが多く存在する る広い海域。水深3500 (地球資源学)らによると、 100万平方まを中心とす 東大の加藤泰浩准教授

~6千層の海底に積むった あるとみている。 Z) にも存在する可能性が ていた。主に公海だが、日 本の排他的経済水域(EE 厚さ2~70点の泥に含まれ 推定埋蔵量は陸地の埋蔵

2*ュ四方の埋蔵量で日本の き、陸地の鉱床のような放一南部の鉱床に匹敵。テレビーと話している。 倍の900億少とみられ、 を吸い上げるだけで採取で 計算。技術的には海底の泥 年間需要約3万シを満たす 量約1億1千万5の800

海底から採取した

科学誌ネイチャー・ジオサイエンス(電子版)に掲載される。 られ、レアアース問題の解決につながると期待される。4日の英 究チームが発表した。採取や精錬しやすい形で存在しているとみ の広い範囲で海底の泥の中に大量に存在すると、東京大などの研

ハイテク製品に欠かせないレアアース(希土類)=配=が太平洋

これがレアアースを吸着し ている。加藤准教授らは、 や鉄分に富む粒子が浮遊し 噴出したゼオライトの一種 に海底に積もっている可能

界の約9割を産出する中国 OPPRの濃度で存在し、 アアースが400~223 泥を分析した。その結果、レ 性があると推定。過去に採 取された78地点2千以上の 世

見したことは意義がある。 状況から見て採取もさほど え、大量のレアアースを発 ムなどを多く含んでいた。 難しくないのではないか」 イオードに使うユーロピウ (鉱床学)は「深海とはい 慶応大の鹿園直建教授 (森治文)

> ム」が史上最高値を更新し続けている。 原料として最も重要視される「ジスプロシウ

ネット上の国際的な指標によると、ジスプ

底で開発有望なレアアース 射性元素をほとんど含ま が確認されたのは初めて。 ず、利用に適するという。海 太平洋では海底火山から ペレアアース(希土類

うジスプロシウム、発光ダ ルビウムや電気自動車に使 や光磁気ディスクに使うテ

中国が輸出枠の制限対象を追加、投機マネー

レアアース(希土類)の価格が、5月下旬

も加わり、数週間で1ま当たり3千が超も急 から高騰している。世界生産の9割を占める

騰する品目も出始めた。

電気自動車や風力発電機のモーター磁石の

の力が強くなったり、熱に強くなったり類ある。鉄などの金属に混ぜると、磁石格が金属(レアメタル)の一種で17種

輸入量の9割を中国に頼っている。 など、ハイテク製品づくりに欠かせな ターやテレビ、携帯電話、光ファイ する性質がある。ハイブリッド車のモー

ット上の指標が追いつかない状態になってい 業者によると、実際の輸出業者の提示額は6 は、6月末には1900に台となった。国内 月末に4千%を超えており、取引の実態にネ

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

どで二つの規則ができてい では自国に有利に働くよう る。ただ、作成過程の審議 激しい駆け引きがあり、提 これまでマンガン団塊な 下旬から高騰

00%台だった。今年に入り毎月100%ず ロシウムの昨夏の輸出価格は、1*nあたり?

つ上昇。5月下旬は900%台だった価格

に流れ、価格の上昇は今後も続きそうだ。 0 %まで上がるなど、高騰している。 当たり310だがわずか1週間後には同42 から上昇。最近では投機マネーもレアアース レアアースは中国が輸出制限を強めた昨年 また、磁石原料のネオジムも5月末、1+